

70mmのSF超大作を世界初の8K放送！
映画史上の金字塔・SF映画の最高峰

「8K完全版 2001年宇宙の旅」

NHK BS8Kで12月1日（土）午後1時10分～放送

圧倒的な映像美にあふれたハリウッド超大作を8Kで放送

謎の物体・モノリスと人類との出会い、宇宙船ディスカバリー号の木星への旅…、哲学的な物語と、リアリティとイマジネーションにあふれた映像で見るものを圧倒した映画「2001年宇宙の旅」(1968)。製作・監督は完璧主義者といわれたスタンリー・キューブリック。今なおSF映画の最高峰にして映画史上の傑作として、その後の映画はもちろん、映像の在り方そのものに大きな影響を与えている。「2001年宇宙の旅」は、破格の超大作として製作され、巨大なスクリーンで上映するために、当時最高のクオリティの70ミリフィルムで撮影された。70ミリフィルムは4Kを超える情報量を有し、8K並みのクオリティを持つとされている。現在、70ミリフィルムを劇場で楽しむことは非常に限られているが、今回、70ミリフィルムのポテンシャルを十分に生かし切ることができる8Kでのテレビ放送は世界初となる。



©Turner Entertainment Company

半世紀前の公開当時の衝撃を8Kテクノロジーで再現

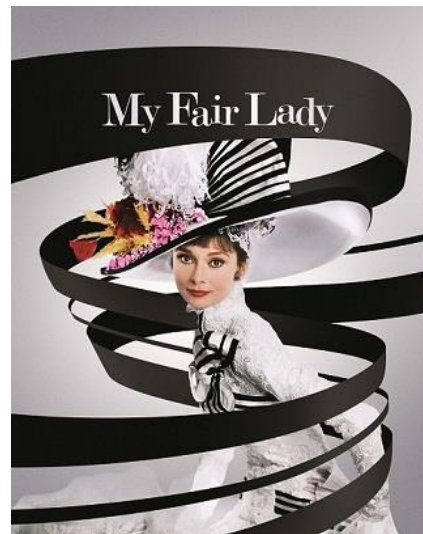
「2001年宇宙の旅」は、今から半世紀前の1968年に公開された。オリジナルのネガは温度や湿度など徹底した管理の下、嚴重に保管されてきたが、50年の歳月により、フィルムの劣化や傷なども発生していた。NHKは、この傑作の世界初の8K放送を呼びかけ、それに応えて、現在作品を管理しているワーナー・ブラザーズが、専門の作業チームに修復・8K化を依頼、フィルムの傷などを丹念に修復し、漆黒の宇宙空間や謎の物体・モノリス、クライマックスの極彩色の場面など、すべての色彩を検証、細かく補正して、初公開時の映像と音声にできるだけ近づけるようレストアを行った。まるで宇宙空間を旅しているような臨場感、作業チームも8K版の出来栄えに思わず息をのんだという。スタンリー・キューブリック監督が、細部に至るまで完璧に作りあげた世界が、8Kの高精細な映像で、これまで以上に鮮明に見るものに迫る。

70mmの鮮やかな色彩が8Kでよみがえる！
ミュージカル映画の傑作中の傑作！

「8K版 マイ・フェア・レディ」(仮) NHK BS8Kで2019年3月放送予定

🎬 70ミリで製作された傑作ハリウッドミュージカル映画を8K放送！

下町の貧しい花売り娘・イライザが一流のレディに変身していくミュージカル・コメディ「マイ・フェア・レディ」(1964)。主演オードリー・ヘプバーン、共演レックス・ハリソン、アカデミー作品賞はじめ8部門を受賞し、映画史上の傑作として、今も多くのファンに愛されている。この作品も当時最高のクオリティである70ミリフィルムで撮影され、巨大スクリーンで上映された。現在、70ミリフィルムを劇場で楽しむ機会は非常に限られているが、今回、70ミリフィルムのポテンシャルを十分に生かし切ることができる8Kで、世界初のテレビ放送をする。



©2018 Home Entertainment. All Rights Reserved.

🎬 カラフルな衣装、華やかな美術、豪華けんらんの映像が8Kでより鮮明に！

今から54年前、1964年に公開された「マイ・フェア・レディ」は、アメリカ映画最高の映画作家の一人、ジョージ・キューカー監督のもと、超一流のスタッフ・キャストが結集して製作された。とりわけ、イギリスの写真家でデザイナーのセシル・ビートンが手がけたカラフルで華やかな衣装と美術は、映画史上屈指とされている。

この作品も、製作から半世紀以上の歳月が経過し、フィルムの劣化や傷などが発生していた。NHKでは、この作品も8Kでの放送を呼びかけ、それに応えて、現在作品を管理しているCBSから依頼を受けたハリウッドの専門作業チームが、オリジナルネガを8Kでスキャンし、フィルムの傷や汚れなどをデジタルで修復、色彩を細かく検証、補正を行った。8Kの高精細な映像で、ヘプバーンやハリソンの表情や演技、次々登場する衣装の質感や、入念に作りこまれた美術・セットの細部まで、半世紀以上前に作られたとは思えない、鮮明でゴージャスな映像が8Kで表現されている。

*Licensor/配給元：CBS Studios International

日本映画の巨匠監督、黒澤明・溝口健二・小津安二郎の名作を
超高精細映像で6週連続放送！

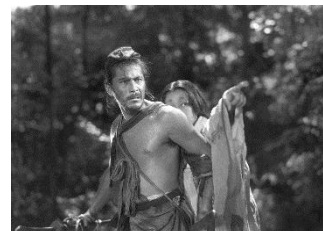
「4Kシアター」

放送：BS4K 毎週土曜 夜9時～

・12月8日(土) 「羅生門 4Kデジタル修復版」

(黒澤明監督作品 1950年製作)

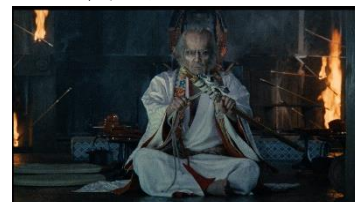
主演・三船敏郎、監督・黒澤明、ベネチア映画祭グランプリ、アカデミー名誉賞(外国語映画賞)を受賞し、日本映画の世界的な評価を決定づけた名作。平安の乱世で起きた殺人事件をめぐる、侍を殺した盗賊、侍の妻、そして侍の霊が、それぞれ事件について語るが、その言い分は、まるで違っていた…。芥川龍之介の短編小説をもとに、人間の心の闇を、強烈な光と影のモノクロ映像と大胆な演出で描いた、黒澤監督の代表作の一つ。



©KADOKAWA 1950

・12月15日(土) 「乱 4Kデジタル修復版」(黒澤明監督作品 1985年製作)

巨匠・黒澤明監督が、シェークスピアの「リア王」をもとに、戦国時代の武将たち、父と息子、兄弟の争いと悲劇を、壮大で華麗な映像美で描く時代劇大作。戦国時代を生き抜いた武将・一文字秀虎は、家督を3人の息子に譲って余生を送る決心をするが、父の権力をめぐって兄弟同士の骨肉の争いになってしまう…。黒澤監督ならではの強烈な色彩、ダイナミックな演出は海外でも高く評価され、アカデミー衣装デザイン賞を受賞した。



©KADOKAWA 1985

・12月22日(土) 「雨月物語 4Kデジタル修復版」

(溝口健二監督作品 1953年製作)

巨匠・溝口健二監督が、戦国時代を舞台に、人間の欲望がもたらす悲劇を、幻想的な映像美で描き、ベネチア映画祭銀獅子賞を受賞するなど、世界的にも高く評価された日本映画史上の傑作。上田秋成の短編とモーパッサンの小説をもとにした脚本、日本映画を代表する名カメラマン・宮川一夫の繊細で鮮烈なモノクロ映像、陶工を演じる森雅之、その妻を演じる田中絹代、そして、もののけを演じる京マチ子の妖艶な魅力が強烈な印象を残す。



©KADOKAWA 1953

・12月29日(土) 「山椒大夫 4Kデジタル修復版」

(溝口健二監督作品 1954年製作)

平安時代の末、母とともに旅をしていた幼い安寿と厨子王は、人買いにだまされ、母と離ればなれになってしまう。2人は丹後の大地主・山椒大夫の荘園で過酷な労働に苦しめられ、ついに逃げ出す決意をするが…。民話をもとにした森鷗外の小説を溝口健二監督が映画化。名コンビのカメラマン・宮川一夫とともに繊細で美しい光と影のモノクロ映像で描き、ベネチア映画祭銀獅子賞を受賞、世界中の映画作家に影響を与えた傑作の一つ。



©KADOKAWA 1954

・1月5日(土) 「近松物語 4Kデジタル修復版」

(溝口健二監督作品 1954年製作)

不義密通の疑いをかけられた京都の大経師の手代・茂兵衛と主人の妻おさんは、主人の怒りを買って琵琶湖で入水自殺を考えるが、逃避行を続けるうち、2人に真実の愛が芽生えてしまう…。巨匠・溝口健二監督が、近松門左衛門の浄瑠璃をもとに、封建的な時代のなかで、真実の愛を貫こうとする男と女を描く傑作中の傑作。茂兵衛を演じるのは、日本映画を代表する大スター長谷川一夫。おさんを演じる香川京子の可れんな美しさも魅力的。



©KADOKAWA 1954

・1月12日(土) 「浮草 4Kデジタル修復版」

(小津安二郎監督作品 1959年製作)

巨匠・小津安二郎監督が、旅回りの一座と、座長をめぐる複雑な人間関係を、ユーモアとペースを交え、きめ細かく描く傑作。1934年のサイレント映画「浮草物語」を自らリメイクし、溝口健二、黒澤明はじめ数々の傑作を手がけた名カメラマン・宮川一夫と組んだ唯一の作品で、鮮やかな色彩や激しく降る雨など、小津監督のカラー映像の演出が印象的。中村鴈治郎、京マチ子、若尾文子、杉村春子をはじめ名優たちの演技も見どころ。



©KADOKAWA 1959